

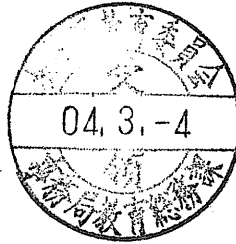
請願第 1 号

請願書

提出者

住 所

氏 名



請願書

教育委員長 中川修一殿

教育委員会委員の皆様

令和4年3月4日

現住所：

請願者：

請願の趣旨

- ・別紙第4号様式の2（第4関係）公文書不在通知書コピー添付致します。
- ・教育委員会の回答でコロナ関係ウィルスに感染しないために、マスク着用が有効という医療的所見やデータは不存在との通知を頂きました。医療的所見もデータもない中でマスク着用、不織布マスク着用とのガイドラインの文言も増え、厚生労働省の見解ではマスク着用は任意となっていますが、幼稚園保育園小中学校では、半強制状態となっています。
- ・保護者や子どもの状態（体調、発達、気持ち）を踏まえ板橋区教育委員会が板橋区内に通達しているガイドラインの改変をして頂きたいです。

請願①「マスク着用は任意として下さい」

※ マスクについては不織布マスクがもっとも高い効果を持つことを踏まえて、不織布マスクの使用を基本とし、正しいマスクの着用方法をおこなう。なお、着用が難しい場合など個々の児童・生徒の事情に応じた配慮をおこなうこととの記載。

- ・開示請求書では医療的効果などのデータが無いという事なので、不織布マスクもマスクの着用も任意として下さい。
- ・現状幼稚園・保育園・小学校・中学校において、マスクをするよう指導しています。校長、副校長、教諭、事務員の方々や通園登校している児童や保護者へマスクは任意である事を周知して下さい。半強制になるような言動を控えていただくよう周知して下さい。

請願②「マスク着用は任意としたうえで、着用しない児童が他児や他児の保護者から虐めや偏見の目で見られないよう任意という事を周知して頂きたい。

厚生労働省子ども家庭局保育課より

<https://www.mhlw.go.jp/content/11920000/000897753.pdf>

・オミクロン株の特徴を踏まえ感染症対策の強化をお願いしますが、子どものマスク着用については、無理のない範囲で、かつ、一時的な対応として、マスクの着用が可能と判断される子どもに奨めるようお願いします。

との記載があります。

厚生労働省：マスク等の着用が困難な状態にある発達障害のある方等への理解について

発達障害のある方については、触覚・嗅覚等の感覚過敏といった障害特性により、マスク等の着用が困難な状態にある場合があります。

発達上の障害に係るマスク着用の困難性には感覚過敏の特性によるものが含まれ、子どものみならず、成人に至っても継続する場合も想定されます。

こうした障害特性により、マスク等の着用が困難な方に対する国民の皆様のご理解をお願いいたします。

厚生労働省子ども家庭局保育課

保育所等における新型コロナウイルスへの対応にかかる

Q&A について（第十三報）（令和4年2月15日現在）

<https://www.mhlw.go.jp/content/11920000/000897753.pdf>

問：18

○ 子どもについては、子ども一人一人の発達の状況を踏まえる必要があることから、一律にマスクを着用することは求めています。特に2歳未満では、息苦しさや体調不良を訴えることや、自分で外すことが困難であることから、窒息や熱中症のリスクが高まるため、着用は奨められません。2歳以上の場合で、登園している子どもが保護者の希望などからマスクを着用している場合でも、正しくぴったりとマスクを着用することは子どもには難しいことも多いことから、常に正しく着用しているかどうかに注意を向けることよりも、マスク着用によって息苦しさを感じていないかどうか、嘔吐したり口の中に異物が入ったりしていないかなどの体調変化について十分に注意していただき、本人の調子が悪い場合や持続的なマスクの着用が難しい場合は、無理して着用せず、外すようにしてください。また、当然ながら、午睡の際にはマスクを外させるようにお願いします。（なお、WHOは5歳以下の子どもへのマスクの着用は必ずしも必要ないとしています。）

2021年4月14日日本小児科学会より

・乳幼児は、自ら息苦しさや体調不良を訴えることが難しく、自分でマスクを外すことも困難です。また、正しくマスクを着用することが難しいため、感染の広がりを予防する効果はあまり期待できません。むしろ、次のようなマスクによる危険性が考えられます。

- ・呼吸が苦しくなり、窒息の危険がある。
 - ・嘔吐した場合にも、窒息する可能性がある。
 - ・熱がこもり、熱中症のリスクが高まる。
 - ・顔色、呼吸の状態など体調異変の発見が遅れる。
- 特に、2歳未満の子どもではこのような危険性が高まると考えます。

2022.1.30 女性セブンの記事より

・「マスクは、子供の脳から酸素を奪います」。そう主張したのはドイツの神経科医マーガレッタ・グリーズ・ブリッソン医師だ。彼女は子供がマスクの着用を続けると慢性的な酸欠状態になるとして、2020年に公開した動画で次のように警鐘を鳴らした。

「酸欠の一時的な警告症状として頭痛や眠気、めまい、集中力の低下などが起こります。しかし、慢性的に酸素が少ない状態が続けば、人体はそれに慣れていくので、頭痛などの警告症状は消えます。とはいえ、脳の酸素不足は進行し続けます。

・ドイツのヴィッテン・ヘアデッケ大学が行ったアンケートが興味深い。同大学は0～18才の子供と青年およそ2万5000人を対象に、保護者が回答する形式でマスクと心身の変化に関するアンケートを実施した。

その結果、マスクによる障害として、頭痛（53.3%）、集中力低下（49.5%）、不快感（42.1%）、学習障害（38.0%）、眠気・疲れ（36.5%）が上位を占めた。また精神面でも以前と比べて、イライラするようになった（60.4%）、快活さが減った（49.3%）、園や学校への登校意欲減少（44.0%）との結果が出た。多くの子供はマスクを着用すると頭痛や集中力低下が生じて、精神面が不安定になり、学習意欲や登校意欲が低下したのだ。

請願③「運動する時、体育の授業中など幼稚園・保育園・小学校・中学校の運動をする時間は、マスクを外させて下さい。」

板橋区教育委員会のガイドライン令和2年9月8日発令、令和3年9月14日発令両方記載があります。

・体育の授業においては、身体的距離（できるだけ2m（最低1m）以上）に配慮することでマスクの着用は必要ありません。（詳細は本ガイドライン別添5「感染症予防に関する教育活動上の対応ガイドライン」をご覧ください。

※ マスクについては不織布マスクがもっとも高い効果を持つことを踏まえて、不織布マスクの使用を基本とし、正しいマスクの着用方法をおこなう。なお、着用が難しい場合など個々の児童・生徒の事情に応じた配慮をおこなうこと。

○現状板橋区内の幼稚園保育園小中学校において、運動や体育時もマスクを着用するよう指導する、教員が多くおられます。

厚生労働省マスクについてのお願い

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000594878.pdf>

- ・マスク着用について。風邪や感染症の疑いがある人たちに使ってもらう事がなにより重要です。

○上記記載の通り子どもには危険な事も有るので任意にして頂きたい。教育委員会の有識者で子ども達の事を考えて集まって下さる皆様へ。マスク着用は現在流行している新型コロナと言われるウィルスの予防効果が有る医療的データは無く、逆にマスクを日常的に着用している事で子ども達の発達成長に弊害が有る事を調べて頂きマスク着用は任意でそれぞれが選んで着用して良い事を周知し対応を変えて頂きたくお願い致します。

第4号様式の2(第4条関係)

公文書不存在通知書

3板総区第39号の15

令和4年1月26日

様

板橋区教育委員会

(公印省略)

令和4年1月18日にあなたから公開の請求がありました公文書については、該当する公文書がありませんので通知します。

請求のあった公文書の件名又は内容	学校や職場などでコロナ関係のウイルスに感染しないために、マスク着用が有効という医療所見やデータが記載のある書類
備考	不存在の理由 当該請求案件について、作成・保有する文書は存在しないため ※本件に関するお問い合わせについては、担当課までお願いいたします。 〈問合せ先〉教育委員会事務局学務課学校運営保健係 3579-2616

※この決定に不服がある場合には、この決定があったことを知った日の翌日から起算して3か月以内に、板橋区長に対して、審査請求をすることができます。(なお、この決定があったことを知った日の翌日から起算して3か月以内であっても、この決定の日の翌日から1年を経過すると、正当な理由があるときを除いて審査請求をすることができなくなります。)

また、この決定については、この決定があったことを知った日の翌日から起算して6か月以内に、板橋区を被告として処分の取消しの訴えを提起することができます。(なお、この決定があったことを知った日の翌日から起算して6か月以内であっても、この決定の日の翌日から起算して1年を経過すると、正当な理由があるときを除いて処分の取消しの訴えを提起することができなくなります。)

ただし、板橋区長に対して審査請求をした場合には、当該審査請求に対する裁決があったことを知った日の翌日から起算して6か月以内に、処分の取消しの訴えを提起することができます。

文部科学省

「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～
(2021.11.22Ver7)」

P40～42 「第2章 学校における基本的な新型コロナウイルス感染症対策について」より

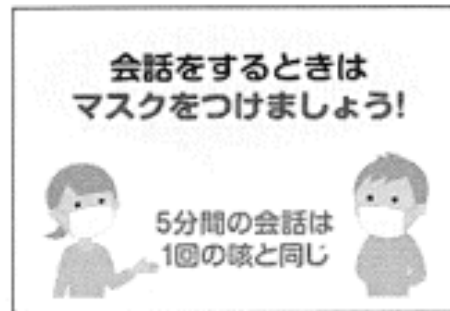
「3.集団感染のリスクへの対応」「(3)「密接」の場面への対応（マスクの着用）」

(3)「密接」の場面への対応（マスクの着用）

①マスクの着用について

学校教育活動においては、児童生徒等及び教職員は、身体的距離が十分とれないときはマスクを着用するべきと考えられます。

ただし、マスクの着用については、学校教育活動の態様や児童生徒等の様子などを踏まえ、以下のとおり臨機応変に対応してください。



1) 十分な身体的距離が確保できる場合は、マスクの着用は必要ありません。

2) 気温・湿度や暑さ指数(WBGT)²⁰が高い日には、熱中症などの健康被害が発生するおそれがあるため、マスクを外してください。(暑さ指数(WBGT)は環境省ウェブサイト <https://www.wbgt.env.go.jp> で提供)

※夏期の気温・湿度や暑さ指数(WBGT)が高い中でマスクを着用すると、熱中症のリスクが高くなるおそれがあります。マスクを外す場合には、できるだけ人との十分な距離を保つ、近距離での会話を控えるようにするなどの配慮をすることが望ましいです²¹が、熱中症も命に関わる危険があることを踏まえ、熱中症への対応を優先させてください。

※児童生徒等本人が暑さで息苦しいと感じた時などには、マスクを外したり、一時的に片耳だけかけて呼吸したりするなど、自身の判断でも適切に対応できるように指導します。

※登下校中の対応については、「第3章 7. 登下校」を参照してください。

3) 体育の授業においては、マスクの着用は必要ありません。ただし、十分な身体的距離がとれない状況で、十分な呼吸ができなくなるリス

²⁰ 暑さ指数(WBGT)とは、気温・湿度・輻射熱の3つを取り入れた暑さの厳しさを示す指標で、熱中症の発生と関連しています。

²¹ 別添資料6(「熱中症事故の防止について(依頼)」(令和3年4月30日付け文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課長 初等中等教育局教育課程課長通知))参照

クや熱中症になるリスクがない場合には、マスクを着用しましょう。
 配慮事項等については別添資料2（事務連絡「学校の体育の授業におけるマスク着用の必要性について」（令和2年5月21日））を参照してください。

（参考）透明マスクの活用について

幼児児童生徒の発達段階や特性に応じた成長を支援する観点から、必要に応じて、表情や口の動きが見えつつ鼻や口元が覆われる透明マスクの活用が考えられます。

（参考）フェイスシールド・マウスシールドについて

フェイスシールドやマウスシールドは、密閉度も不十分であり、マスクに比べ効果が弱いことに留意する必要があるとされています。（フェイスシールドはもともとマスクと併用し眼からの飛沫感染防止のため、マウスシールドはこれまで一部産業界から使われてきたものであり、新型コロナウイルス感染防止効果については、今後さらなるエビデンスの蓄積が必要とされています。）²²

例えば、教育活動の中で、顔の表情を見せたり、発音のための口の動きを見せたりすることが必要な場合であって、透明マスクの確保等が困難な場合には、フェイスシールドやマウスシールドを活用することも一つの方策と考えられますが、この場合には身体的距離をとりながら行います。

（参考）正しいマスクの着用について

正しいマスクの着用



① 鼻と口の両方を
確実に覆う



② ゴムひもを
耳にかける



③ 隙間がないよう
鼻まで覆う

²² 「分科会から政府への提言 感染リスクが高まる「5つの場面」と「感染リスクを下げながら会食を楽しむ工夫」（令和2年10月23日新型コロナウイルス感染症対策分科会）

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/ful/bunkakai/teigen_12_1.pdf



やってみよう「新型コロナウイルス感染症対策みんなでできること（動画）」

新型コロナウイルスから身を守る方法や他人にうつさないために心がけることをわかりやすく紹介する動画を公開しています。

マスクがない場合に、自作する方法も紹介しています。

タレントの鈴木福君と夢ちゃんと一緒に是非ご家庭でも学んでみてください。

（参考）マスクの素材について

マスクの素材等によってマスクの効果には違いが生まれます。一般的なマスクでは、不織布マスクが最も高い効果を持ち、次に布マスク、その次にウレタンマスクの順に効果があるとされています²³。こうしたことを保護者に適宜情報提供することも考えられます。

②マスクの取扱いについて

マスクを外す際には、ゴムやひもをつまんで外し、手指にウイルス等が付着しないよう、なるべくマスクの表面には触れず、内側を折りたたんで清潔なビニールや布等に置くなどして清潔に保ちます。

マスクを廃棄する際も、マスクの表面には触れずにビニール袋等に入れて、袋の口を縛って密閉してから廃棄します。

③布製マスクの衛生管理について（布製マスクの洗い方）

布製マスクは1日1回の洗濯により、おおむね1か月の利用が可能です。経済産業省が、洗い方に関する動画をインターネット上に掲載しています（YouTube metichannel「布マスクをご利用のみなさまへ」）。

（検索方法）

- ・YouTube から「布マスクをご利用のみなさまへ」で検索してください。

<https://www.youtube.com/watch?v=AKNNZRRo74o>

²³ 厚生労働省ホームページ「新型コロナウイルスに関する Q&A（一般の方向け）」「問 マスクはどのような効果があるのでしょうか。」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/dengue_fever_qa_00001.html#Q4-1

東京都教育委員会（令和４年２月９日）

「新型コロナウイルス感染症対策と学校運営に関するガイドライン【都立学校】～学校の「新しい日常」の定着に向けて～ 改訂版 ver.4.1」

P2～5「新型コロナウイルス感染症対策の基本的な考え方」

新型コロナウイルス感染症対策の基本的な考え方

感染症対策においては、一人一人の感染予防に関する行動が、自分の命を、家族を、大切な人を、社会を守ることにつながる。また、感染拡大防止のため、医療や社会生活を維持する業務の従事者等、最前線で尽力されている方々により、私たちの生活は成り立っている。学校教育活動の再開に当たっては、教職員、幼児・児童・生徒、その保護者、その他の学校関係者などの全員が、この認識を共有していくことが重要である。

令和４年２月現在、新型コロナウイルス感染症については、都内においては感染力が高いと言われる新たな変異株（オミクロン）の感染が拡大しており、１日あたりの感染者数がかつてないスピードで急速に増加している状況にある。新規陽性者数は各年代で増加しており、１０歳未満及び１０代についても増加の傾向にあることから、学校生活における感染防止対策の徹底が求められている。社会全体で「子供を守る」という意識の啓発が必要である。また、１０歳未満、若年層を含めてあらゆる世代が感染によるリスクを有しており、自分の身は自分で守るという意識を、学校に関わる一人ひとりがより一層強く持たなくてはならない。

基本的な感染症対策の徹底

感染力が高いとされる変異株においても、基本的な感染症対策は有効であり、学校での感染拡大を防止するためには、基本的な感染症対策の徹底、児童・生徒、教職員の健康観察の実施、保護者と連携した対策の推進が必要である。

- 正しいマスクの着用の徹底（不織布マスクの着用）
- ３つの「密」（密閉・密集・密接）の一つ一つを確実に回避することを徹底
 - ・ 換気の悪い密閉空間
 - ・ 多くの人が密集している状況
 - ・ 互いに手を伸ばしたら届く距離での会話や共同行為
- ※ ３つの「密」の条件が同時に重なる状況は必ず回避することはもちろん、できる限りそれぞれの密を避けることが望ましい
- 正しい手洗いや手の消毒などの基本的な感染症対策を徹底
- 児童・生徒、保護者等や教職員の健康観察の徹底

- 不要不急の外出行動を行わない・行かせないことを徹底
- 日頃の連絡体制を確認し、確実に連絡が行き渡る体制づくりを徹底
- 学校医や学校薬剤師等と連携した校内保健管理体制の整備の徹底

上記の対策のうち、一人一人が特に徹底すべき対策を「感染症基本行動5か条」として定め、徹底した対策を行うこととする。

学校に関係する1人1人の意識を高めるためにチェックリストを活用する。

感染症基本行動5か条

- ✓ 常にマスク（不織布）を正しく着用
- ✓ 3つの「密」を徹底的に回避するため換気の徹底と距離の確保
- ✓ 正しいタイミングと正しい方法での手洗いを徹底
- ✓ 消毒の徹底
- ✓ 健康観察の徹底

1 常にマスク（不織布）を正しく着用

マスクの着用方法によって飛沫の捕集効果に違いが生じることから、正しい方法で着用することが重要である。さらに、一般的なマスクでは、不織布マスクが最も高い効果を持ち、次に布マスク、その次にウレタンマスクの順に効果があるとされていることを踏まえ、不織布マスクを着用する。ただし、特別な配慮を要する児童・生徒で、不織布マスクは着用できないが、布マスクであれば着用ができる場合、布マスクの着用を行う。外出から帰宅まで、また、登校から下校（食事時や運動時、その他事情のある場合を除く。）まで、マスクを鼻と口を覆って着用させる。会話時には必ずマスクを着用し、マスクをずらしての会話など、マスクを正しく着用せずに会話を行うことは避ける。正しいマスクの着用方法については、厚生労働省ホームページを参考にする。

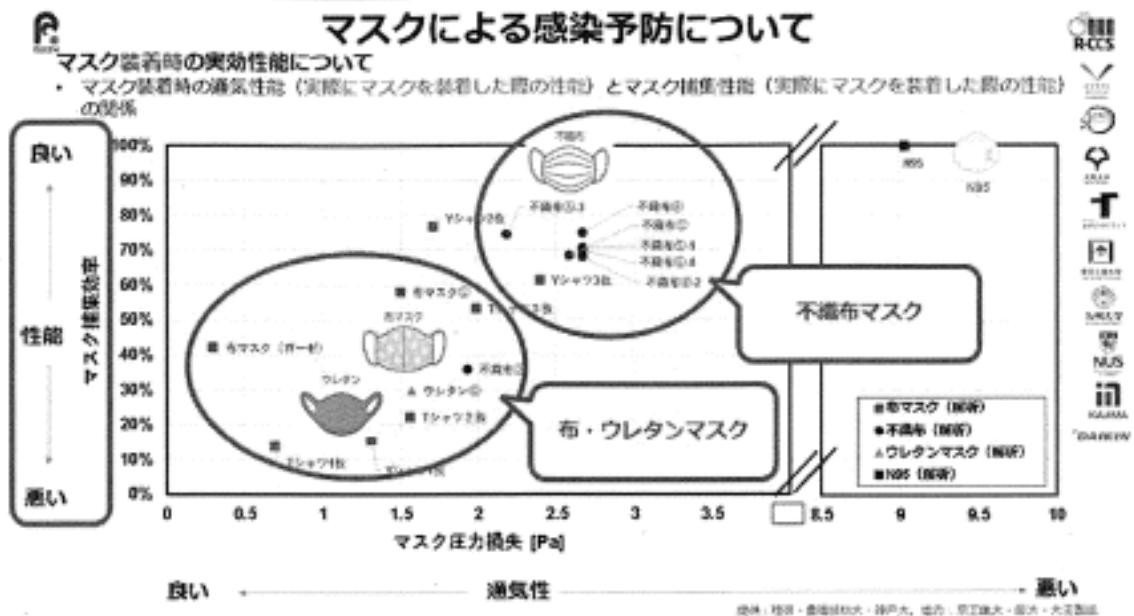
(https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00094.html)

登校時にマスクを忘れてきた場合や、校内でマスクを汚してしまった場合などは、鼻や口をティッシュやハンカチで覆わせた上で、保健室等に保管している予備のマスクを着用させるなどを徹底する。マスクを着用させることができない、やむを得ない場合には、ティッシュ・ハンカチや袖で口・鼻を覆わせるなど、咳エチケットを行うよう指導する。

マスク着用により熱中症などの健康被害の可能性が高いと考えられる場合には、換気が十分に行われている環境の下で、互いに十分な距離を保った上で、マスクを

外すよう指導する。また、授業の前後や授業中に適宜水分を摂取させるなど、児童・生徒等の健康状態に常に注意を払う。

なお、児童・生徒等には、感染症対策用の持ち物として、一般的には次のものが必要となる。



「各自に必要な持ち物」

- ✓ 清潔なハンカチ・ティッシュ
- ✓ マスク
- ✓ マスクを置いたり、持ち運んだりするための布又はビニール袋

正しいマスクの着用



（出典：首相官邸 HP・厚生労働省）

TOPICS

マスクについて

<マスクの効果>

マスクは、鼻と口を覆うことで、咳やくしゃみの飛沫の飛散を防ぎ、ウイルス等を人に感染させるリスクを減らす効果があります。症状がない感染者（不顕性感染）もウイルスを人に感染させる可能性はあるため、学校のように多くの児童・生徒等や教職員等が集まる場所では、マスクを正しく着用することにより感染拡大を防ぐ効果があります。

また、一般的なマスクでは、不織布マスクが最も高い効果を持つとされているため、不織布マスクの使用を推奨します。



<マスクを着用する際の注意事項>

- ・マスクを着用することにより呼吸に負荷がかかる場合もあるため、熱中症のおそれがある場合等は、換気や互いに距離を保つなどの感染症対策を行った上で、マスクを着用しないこともあります。

※体育の授業におけるマスクの着用については、3（4）イ（p.30）を参照

- ・マスクのフィルターには病原体が付着している可能性があるため、使用中はあまり触らないようにします。体育の授業や食事等で外す場合も、できるだけ表面には触らないようにし、布で挟んだり、ビニール袋に入れたりして保管します。マスクを外した後は、流水と石けんで手を洗います。

<指導に当たって>

- ・児童・生徒等が、学校でマスクを着用することの効果や着用する際の注意事項を理解できるよう指導します。
- ・マスクについては、一律に着用を促すだけでなく、個々の児童・生徒等の事情に応じた配慮が必要であり、そのことを保護者にも周知する必要があります。

TOPICS

アイガード、フェイスシールドについて

<着用場面>

- ・マスクを付けていない児童・生徒等に近い距離で接する場合は、目の粘膜を飛沫から防護するためにアイガードを導入します。飛沫を浴びる可能性が高い場合は、フェイスシールドを着用します。
- ・特に、食事や歯磨き、入浴介助の場合は、食事介助者のフェイスシールドの着用を徹底しましょう。
- ・お互いがマスクを付けている場合、教室で教員がアイガードやフェイスシールドを使用する必要はありません。

板橋区教育委員会（令和３年９月１４日）

「幼稚園・小中学校感染症予防ガイドライン（新型コロナウイルス感染症）」より

「Ⅰ 学校運営編」「１ 感染症予防策の徹底（国衛生管理マニュアル別添１の P26）」「（１）幼児・児童・生徒」

Ⅰ 学校運営編

１ 感染症予防策の徹底（国衛生管理マニュアル別添１の P26）

（１）幼児・児童・生徒

ア 学校は、幼児・児童・生徒（以下「児童生徒等」という。）に対し、手洗い（登校時や給食前、体育の授業後、外遊びの後、トイレ使用後等）、咳エチケット（ティッシュ・ハンカチや袖で口・鼻を覆う、マスクの着用等）の励行について指導すること。

マスクの着用について（国衛生管理マニュアル別添１の P46～48）

屋内で、身体的距離（できるだけ 2m（最低 1m）以上）が十分とれないときは、マスクを着用すべきと考えられます。

屋外で、気温・湿度や暑さ指数（WBGT）が高い日には、熱中症などの健康被害が発生するおそれがあるため、身体的距離（できるだけ 2m（最低 1m）以上）に配慮しながらマスクを外してください。

熱中症は直ちに命に関わる危険があることを踏まえ、熱中症への対応を優先させてください。

児童生徒等本人が暑さで息苦しいと感じた時などは、身体的距離（できるだけ 2m（最低 1m）以上）に配慮しながらマスクをはずしたり、一時的に片耳だけかけて呼吸したりするなど、自身の判断でも適切に対応できるよう指導します。

体育の授業においては、身体的距離（できるだけ 2m（最低 1m）以上）に配慮することでマスクの着用は必要ありません。（詳細は本ガイドライン別添５「感染症予防に関する教育活動上の対応ガイドライン」をご覧ください。）

※ マスクについては不織布マスクがもっとも高い効果を持つことを踏まえて、不織布マスクの使用を基本とし、正しいマスクの着用方法をおこなう。なお、着用が難しい場合など個々の児童・生徒の事情に応じた配慮をおこなうこと。

※ 手作りマスクの作成方法（子どもの学び応援サイト等、文部科学省）

https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/mext_00460.html

※ 布製マスク洗い方の動画（経済産業省、厚生労働省）

<https://www.meti.go.jp/press/2019/03/20200319009/20200319009.html>

※ 正しいマスクの着用について（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00094.html